THEME 4 テーマ 4

「地球が微笑むものづくり」を追い求めます

ありたい姿　地球環境 ›››››››› 低炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現を目指します

環境経営の推進

「環境ビジョン2020」の制定（2020年のあるべき姿）

当社は、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」の下でKawasaki事業ビジョン2020を策定し、あわせて環境と経営の一体化の観点から環境に対する2020年のあるべき姿を目指して、「環境ビジョン2020」を新たに策定しました。

当社が定めた環境憲章の環境基本理念に基づき、環境ビジョン2020では「低炭素社会の実現」「循環型社会の実現」「自然共生社会の実現」という3つの社会の実現と、これらを実現するための土台となる「環境マネジメントシステムの確立」の4項目を基本指針とし、持続可能な社会への貢献を目指していきます。

そのビジョンの実現に向けて、三ヶ年ごとに「環境経営活動基本計画」を定めており、2010年度からの三ヶ年を第7次環境経営活動基本計画期間として目標を設定しています。

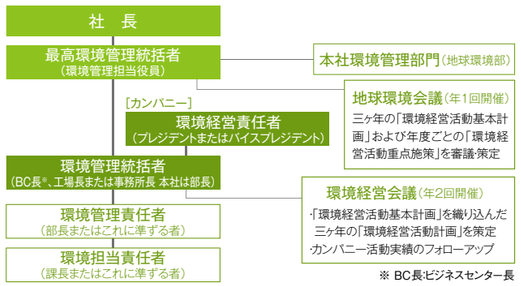
《環境ビジョン2020》
3つの切り口から持続可能な社会の実現に向けて

低炭素社会の実現	エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献
循環型社会の実現	資源を無駄なく利用するものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる
自然共生社会の実現	地球環境に調和したものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献
環境経営の基盤づくり	
環境マネジメントシステムの確立	環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり

環境経営の流れ

環境管理組織

当社は、最高環境管理統括者（環境管理担当役員）を選任するとともに、最高環境管理統括者を議長とする「地球環境会議」において、さまざまな重要事項を審議・策定しています。また、策定された環境経営活動基本計画をそれぞれの事業部門が主体的に活動に展開できるよう、各カンパニーの組織に対応して、環境経営責任者、環境管理統括者、環境管理責任者、環境担当責任者を選任し、全員が一丸となって環境への取り組みを推進できる組織体制を確立しています。



環境ビジョン2020の実現に向けて

環境ビジョン2020のスタートとなる第7次環境経営活動基本計画（2010～2012年度）と2010年度の重点施策を定め、ビジョンの実現に向けて取り組んでいます。

環境経営活動基本計画

第7次（2010～2012年度）環境経営活動基本計画	2010年度の重点施策
低炭素社会の実現　エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献	
地球温暖化対策 ①自らの生産活動に伴うCO_2排出量の削減 ・全社省エネ活動を推進するためCO_2見える化 ・検証の仕組みづくり ・全社CO_2削減対策（省エネ設備投資） ・特定荷主として物流における省エネ推進 ②当社の製品・技術による排出量獲得 ・当社の製品・技術による国内外の排出量獲得（CDM等）の仕組みづくり ③取引市場からの排出量購入 ・CO_2削減目標未達成の場合の措置 ④寄付行為等による排出量獲得 全社目標 2007年度を基準とし、2012年度までに2008～2012年度の平均排出原単位（=CO_2排出量/売上高）10%削減	地球温暖化対策 ①自らの生産活動に伴うCO_2排出量の削減 ・CO_2排出の見える化・検証づくり（改正省エネ法への対応含む） ・全社CO_2削減対策（省エネ設備投資） ・各部門の自主削減活動の強化と計画のフォロー ②当社の製品・技術による排出量獲得 ・国連CDM等によるCO_2削減事業については当該部門の活動を側面支援 ③取引市場からの排出量購入 ・削減目標未達成分の購入費用の負担検討 ④寄付行為等による排出量獲得 ・森林保全活動、グリーン電力の活用等の調査
循環型社会の実現　資源を無駄なく利用するものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる	
廃棄物総排出量削減に向けた取り組み ①省資源、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進 ②ゼロエミッション活動、リサイクル率の向上 全社目標 2002年度を基準とし、2012年度までに排出原単位(=廃棄物総排出量/売上高)を12%削減、ゼロエミッションの維持 PCB廃棄物の適正処理計画の策定とフォロー	廃棄物総排出量削減に向けた取り組み ①廃棄物の排出量上位3物質（金属くず・廃油・木くず等）の削減活動 ②省資源、3Rの推進 ③ゼロエミッションの維持・向上 ④電子マニフェスト導入の推進 PCB廃棄物の適正処理計画の策定とフォロー ①JESCO委託処理のフォロー ②低濃度PCB含有機器の処理動向と台数のフォロー ③PCB汚染土壌の適正処理の推進
自然共生社会の実現　地球環境に調和したものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献	
化学物質削減に向けた取り組み ・削減目標設定と活動推進（設計・生産両面からの取り組み） 全社目標 管理対象の化学物質について、2003～2005年度平均を基準とし、2010～2012年度の削減目標を設定 製品・技術を通じた環境貢献 ①製品ライフサイクルでの環境負荷低減に向けた取り組み ・製品ライフサイクルアセスメント実施に向けた対応基盤の整備 ②製品のグリーン化・製品に対する環境配慮の推進 生物多様性への影響低減と保全 ・生物多様性の行動指針の策定と保全の推進	化学物質削減に向けた取り組み ①第7次計画における削減対策強化部門の重点フォロー ・使用状況を把握・整理し、課題を明確化して目標設定 製品・技術を通じた環境貢献 ①製品ライフサイクルでの環境負荷低減に向けた取り組み ・モデル製品を選定し、評価手法検討 ・製品・技術を通じた環境貢献の情報発信 ②製品のグリーン化 ・法規制対応の徹底（RoHS指令、REACH規則等） ・グリーン調達の推進（グリーン購入比率の設定と達成施策） 生物多様性保全への取り組み ①工場内の取り組み推進
環境マネジメントシステム（EMS）の確立　環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり	
川崎重工グループにおけるEMSの構築 全社目標 2012年度までに国内および海外重要生産拠点である連結子会社のEMSの構築を完了 環境法令等遵守の徹底 ・環境事故等の再発防止 環境コミュニケーションの推進 ・すべてのステークホルダーとの環境対話の推進	川崎重工グループにおけるEMSの構築 ①国内および海外連結子会社のEMS構築計画の策定と推進 ②グループ全体の主要環境データ収集（エネルギー、廃棄物、化学物質等） 環境法令等遵守の徹底 ①環境法令等遵守状況調査委員会の活動 ②環境法令改定等のフォローと全社展開 環境コミュニケーションの推進 ①川崎重工グループ従業員への環境啓発活動（環境教育） ②社内外への環境情報の発信（環境ニュース、CSR報告書の発刊等） ③企業の森づくり活動